

第 2 回地域協議会 提出資料

令和 3 年 3 月 15 日

生駒市長 殿
教育長 殿

生駒南第二小学校 PTA
会長 木村太祐

【生駒南第二小学校を存続させる】ための施策(案)、方策(案)について、生駒南第二小学校 PTA に寄せられた意見を提出いたします

PTA に寄せられた、貴重な意見です。

「自治体 3.0」のキャッチフレーズに従うのであれば、今般提出されたすべての意見（各自治会、民生委員等諸団体から提出された意見を含む）は、生駒市民が汗をかいた結果、提出するものです。

市職員（事務局）もしっかりと汗をかいて、1 つ 1 つの意見に丁寧に回答をしていただきますよう、強く要請します。

※現在の規定、規則、基準等では対応できないとの回答は一切、受け付けません。

【生駒南第二小学校を存続させる】ための施策(案)、方策(案)

1. 駅近立地条件、小規模校だから出来る、特色ある授業（外国人アスリートによる英語でのスポーツ指導(ラグビー、サッカーなど)・プログラミングやホームページ制作など IT 技術の習得)を徹底的に盛り込み、安全性が担保されている駅近立地条件を生かし、生駒市全域から小規模校を希望する児童を受け入れる。

また、多様な学びのための教育相談教室を校内に併設、カウンセラーを常設し、南地区の不登校児童を受け入れる。

2. 空き教室を有効活用し、校内に幼稚園や公民館の様な地域と関わる場を設けて、地域との関わりを増やす。

学校の空き教室を地域に開放して、学校支援ボランティア等にもっと気軽に参加できる環境をつくる。法的なことはよくわからないが、高齢化社会に対応する何か。老人の集う場所を提供する。(専門業者に委託運営)

3. 生駒南第二小学校のように、家庭的な牧歌的な小規模校には、学校、保護者、児童、地域住民の錦帯が出来ている。地域が育む児童健全育成を二小をモデル校とし、市内すべての小学校にて取り組む。
4. 実践的なキャリア教育の実施。二小を子どもの夢が具現化された、子どもがワクワクして通学することのできる学校に改革する。子どもたちに自分たちの意見を集めさせ、問題点を具体化させて解決方法を模索してもらう。必要な活動資金はクラウドファンディングや補助金申請、企業からの寄付を募るなど大人のサポートの下、子どもたちに実践してもらう。活動内容はYouTubeやSNSなどのITツールで国内外に日本語と英語で発信する。多様な価値観に触れる機会を多くもつ。ける。
5. 学校、児童、地域が互いに win-win になる、地域と連携した学習に力を入れる。(防災学習など)
6. 二小では学校の施設や設備を、全ての児童が利用できる機会を準備できることが可能である。例えば、毎年恒例のかけ足は、体育の時間を重ねずに、設定でき、感染予防に配慮された時間割にできた。教育課程の全般を小規模校から見つめ直すべき。
7. たんぽぽタイムをさらに回数を増やす、週一回ぐらいにして他学年との関係を密にする。例えば、一ヵ月間同じメンバーで固定して工作などみんなで力を合わせて一つの作品を作り上げる。その過程で上級生、下級生のお互いの価値観や考え、などの社会性、情緒面での化学反応が生まれてくる。
8. 大谷川でホタルを飼育されているボランティア団体さんに出前授業してもらったり、一緒に守るための活動や飼育活動などをする。里山遊びやたんぽぽアートなどを地域の方々と一緒にする。せつかくの自然豊かな環境を活かす、守るために出来ることをこども達が考えて地域のサポートを得ながら自然の中で育ててほしい。
9. 特定のスポーツに特化した活動(例:ダンス、陸上など)を推進する。
目標は、全国的に有名となるレベルを目指す。
他の学校よりも、何か秀でたものを作り、生駒市全域より希望者の入学を許可する。別にスポーツ拘らない。

10. 二小は地域との繋がりがとても強い学校である。子どもたちが地域に貢献する見える活動を積極的に取り入れる。限られた時間内では難しいなら、部活動で「地域部」のようなものがあったら面白い。子どもたちが聞き取り調査をして、地域の方々に発信していく。

11. 学童を校舎内に移設し、現学童施設、プールを撤去し、現在の学童の場所、プールの場所およびプール南側の土地の有効活用を検討する。小平尾保育園の移設、民間認可保育園誘致等。
※過去には萩の台住宅地内に保育園建設予定地があった。(現在、「ちどり」がある場所)

12. 運動場の芝生化

13. 未就園児と保護者を対象として、防犯対策が出来ている小学校内に、子育て支援センターを常設する。南地区には、そういった施設がないと認識している。
生駒駅近くや、乳児保育園の近くにはあるが、子連れで行くには遠く、気軽には行けない。

14. 小規模校維持のための生駒市の努力不足による赤字が統廃合の要因と市長、教育長の発言により明確に示されている。
したがって、小規模校のメリットを理解し、赤字解消に向けて具体的プランを持った人物を教育委員会職員と校長として民間より公募すればよい。(現市長も副市長時は公募)

15. 南中学の存続のために、二小校区だけが犠牲になっている。まず、緑中、大瀬中、南中の校区見直しを検討すべきであり、二小の統廃合とは別問題とするべきである。
大瀬中校区(壱分小学校区)において、明らかに緑中、南中に通学した方が安全面、防災面から判断しても合理的な地域がある同様に大瀬中校区(南小学校区)において、明らかに南中に通学した方が安全面、防災面から判断しても合理的な地域がある
また、壱分小学校区において、600戸規模(萩の台住宅地同規模)の宅地開発が進められる。それを見越した中学校区を見直すべきであり、二小校区全部が南中存続させるために南中校区になる必要性は全くない

16. コロナ禍においても、生駒市教職員組合が実施した教育署名について、二小より293筆、教職員組合より122筆、合計415筆が教育委員会に提出されている。

17. 二小は言うほどの小規模校でもない。地域の核になる施設であることは間違いない。二小の児童は全体的に学力が高く、教育熱心な家庭も多い。今年度は、算数の特別な先生が来られ、少々難解な問題を出してくれている。これを機に、二小だから出来ている、児童全員に目が行き届き、高学力な児童を量産できる恒常的な教育体制を維持、構築していくべき。また、生駒市全域からこの教育体制を希望する者を受け入れることも可能とすればよい。

18. 算数の学習指導員が二小に一年間、算数指導をしてくださいました。

小学生に、あれだけ質の良い、数学センス溢れる学習指導をして下さったこと、感謝しています。

小規模小学校なら、このような丁寧で踏み込んだ学習指導をしていただける。小規模小学校には、きめ細かい学習指導が可能であること、数学やその他の専門家の指導が行き届く環境にある。

わたなべ爽先生の算数は、大学入試に通じるものがある、本質的な数学（算数）でした。二小だから可能であった、本質をついた指導である。

19. 南小中学校を義務教育学校とする。大瀬中学校区を施設分離型小中一貫教育校とする。南二小に生駒市教育センター(仮称)を併設しギガスクール構想等の先進教育研究を推進する。両中学校区を生駒市義務教育推進校区(仮称)とする。

20. 生駒市が子育てしやすいまち、子供の学力を保証するまちを目指し住民を誘致してほしい。そのためには少人数学級は必修である。文科省のいうことをそのまま受け入れず先進的に導入すべきである。

21. 今まで積み上げて来た地域と協働して子供達の育ちを支える第二小学校で、充分存続させる意義はある。上から目線の存続をさせたいなら案を出せなどという相手の土俵に乗らず、子供を安心して通わせることのできる学校、地域の宝を手放さないのは当然の権利である。

22. 二小では一人一人のこどもの発達に応じたきめ細かい教育ができる。

発達障害のこどもたちや、配慮の必要な子ども達に学校全体で取り組みやすい環境は小規模校の魅力

23. 地域とのかかわり

文化祭などを通じて、地域と合同の取り組み

(地域には、美術や音楽、舞踊など、また園芸や農業など、多くの財産がある。)

24. 生駒市も取り組んでいる SDGs（持続可能な開発目標）でテーマを選んで、学習に取り組んでいく。
例えばごみ問題など、今、萩の台住宅地で取り組んでいることなど。

25. 文科省でも、取り組みだしている少人数学級のモデル校として、実践していく。

（30 人学級、20 人程度学級の実践校として）

教職員組合による教育署名（署名活動）のとおり、教員においても少人数学級を望んでいる。

26. 当初より 1 年半が経過しており、今頃になって意見を取りまとめること自体、後手後手の対応である。すでに文科省においても少人数学級への指針を打ち出しており、すぐにでも対応可能な二小はモデル校に十分なりえる。

27. 別紙 1

28. 別紙 2

以上

(40代 女性)

生駒市の公立小中学校を経て、高校・大学を卒業し、一般企業で勤めてきましたが、コロナを機に退職し、以前から憧れと関心を抱いていたデンマークに短期留学しました。

そのままデンマークで働いてみたいと思い仕事探しをしましたが、自分のキャリアが全く通用せず、いかにグローバルで戦力外かを思い知りました。日本社会に合わせすぎると世界では生き残れない…と、漠然とした恐怖のようなものさえ感じました。

今の日本社会を形作っているのは、これまでの日本の教育です。コロナで世界中の“当たり前”が見直された今こそ、日本の教育を見直すときではないでしょうか。

子どもたちの個性やしあわせを重視する教育方法は、私が関心を持っているものだけでも下記(*)くらいありますが、現在のところ、それを実践している学校は私立やフリースクールなどがほとんどだという印象です。公立の小中学校で他に先駆けて、二小でこのような教育を実践できるといいですね。少人数だからこそ、一人ひとりの「やりたい」に寄り添い、個性を大事にして、それを伸ばしていけるのではないのでしょうか。

学校を良い形で持続・存続させていくには、住民と一緒に作り上げることと、教育内容が魅力的であることは必須だと思います。二小は生駒市のコミュニティスクールのモデル校でもあるので、その仕組みを存分に生かし、子どもたちがこれから社会で(世界で)生きていくために本当に必要なものを身につけられる公教育を、ぜひ実現していただきたいです。

***子どもたちの個性やしあわせを重視する教育方法の事例**

1. 探究学習

- ①【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

参照:

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/02/17/1300464_3.pdf

→事例:ラーンネット グローバルスクール <http://www.l-net.com/>

2. STEM 教育

S : Science

T : Technology

E : Engineering

M : Mathematics

＜それぞれの頭文字を取った言葉で、科学・技術・工学・数学の教育分野を総称した言葉。STEM 教育はこれら 4 つの学問の教育に力を注ぎ、IT 社会とグローバル社会に適応した国際競争力を持った人材を多く生み出そうとする、21 世紀型の教育システム。＞

参照: <https://coeteco.jp/articles/10070>

3. アクティブ・ラーニング

＜教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的 能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。＞

参照:

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/09/24/1361110_2_5.pdf

3. 反転学習

＜反転授業とは従来の授業形態を「反転」させる教育方法のこと。ビデオなどのオンライン教材で新しい知識を個別に事前に学習し、学校の集団授業では演習を行って分からない部分を質問したり、クラス内で意見交換を行って理解を深めるのが「反転授業」＞

参照:

<https://education-career.jp/magazine/data-report/2016/flippedclassroom/#:~:text=%E5%8F%8D%E8%BB%A2%E6%8E%88%E6%A5%AD%E3%81%AF%E3%80%81%E5%BE%93%E6%9D%A5%E3%81%AE%E3%82%88%E3%81%86%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%9F%E3%82%82%E3%81%A%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

4. シュタイナー教育

＜シュタイナー教育は自分で感じ、自分で考え、自分で行動できる人を育てることを目指す。そのためにシュタイナー教育では、子どもたちへの深い理解と、独自の体系的な教育を展開している＞

実例：京田辺シュタイナー学校 <https://ktsg.jp/>

5. イエナプラン教育

＜一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育＞

＜個性の尊重や対話を重視した指導が行われている。つまりイエナプラン教育が目指すものは、自律のための「主体性」と、共生に必要な「協調性」の獲得だと言える＞

＜またイエナプラン教育は、「世界一の教育」と表現されることもある。イエナプラン教育の普及するオランダは、過去に子どもの幸福度ランキングで、先進31か国中1位を獲得＞

参照：

<https://studystudio.jp/contents/archives/38879>

実例：

学校法人茂来学園 大日向小学校

<https://www.jenaplanschool.ac.jp/>

箕面こどもの森学園

<https://cokreono-mori.com/kodomonomori/index.html>

(以上)

【前提】

1. 「学校のあり方」からではなく「(これからの) 教育のあり方」から意見を出し合い、前向きに議論していきたい。
2. これからは、画一的な「あり方・あるべき姿」を目指すのではなく、多様な「ありたい姿」を描く時代。
『二小をこんな学校にしたい!』という「ありたい姿」を描き、生駒市・市教育委員会・学校・保護者・地域・その他二小を大切に思う皆で力を合わせて(協働して)、その描いた学校を創り上げて行きたい。

【1. 子どもに幸せな教育を受けて欲しい】

●「よく生きること」を学ぶ教育

- <今まで私たちは「大きい」ことや「豊かである」ことに価値を見出していましたが、これからは、むしろ「小さい」こと、「つながる」ことに価値を置くべき>
- <そのためには、なによりも教育の方向転換が必要>
- <大きさや富を得ることに価値を置く教育ではなく、「等身大の自分であり、よく生きること」を学ぶ教育が、今、求められています>

●主体的に行動できる教育

- <民主的で小さな学校で学んでいる子どもたちは、自己肯定感が高く、自分の考えや感情を素直に表現し、主体的に行動できるなどの特徴が見られます>

●コミュニケーション能力・協働できる能力が育つ教育

- <今の子どもたちは、変化が激しい予測不能な社会の中で、これから自分の進むべき道を選択していかなければなりません>
- <そんなとき、拠り所になるのは自己肯定感と、他の人とコミュニケーションをとり、協働していくことのできる能力>

●子どもの興味・関心が大切にされる教育

- <民主的で小さな学校では、子どもの興味・関心が大切にされます>
- <教科書で一齐に学ばせるよりも学習が効果的に行われる>

●子どもの主体的で深い学びを促進する教育(プレイフル・ラーニング)

- <誰からも指示されずに自分自身の興味・関心からなされる学び>
- <自らの意思で学ぶことの経験が、子どもたちを主体的で深い学びに誘う>

●自分のやることを自分で選んでいく力がつく教育

※< >部分は引用。出典:『小さな学校の時代がやってくる』辻 正矩 著/築地書館

【2. 二小をこんな学校にしたい】

二小を、みんなの“小さなやりたい”が渦まく地域の拠点にしたい！

- ・ひとり息子がまだ就学前の年齢であるため、母校でもある二小には卒業以来入ったことがない。コミュニティ・スクールの担い手等として二小に積極的に関わっている方は別として、特に未就学の親は私と同じように、子どもが入学するまでほぼ関わりがないという人が多いのではないか。それがもったいなく感じる。
- ・二小を、地域の人たちも気軽に立ち寄れるような場所にできないか。
- ・萩の台住宅地には、生駒市が推進する『100の複合型コミュニティづくり』の先進事例として、これまで国の各機関からも複数の視察が来ている『こみすて』がある。自治会の方が中心となって、手探りながらも自分たちの力で持続的に運営できる方法や、住民同士の世代を越えたつながりが生まれてきている。この仕組みを、二小に持って行って複合型コミュニティの拠点とできないか。
- ・私自身、萩の台住宅地内にある街区公園を活用した『公園にいこーえん』や、『こみすて』の様子をSNSで発信することを以前から自主的にやっているが、もし二小がもっと気軽に地域に開かれたものになるのなら、さらにやりたいことが出てくると思う。
- ・『こみすて』の初動のしつらえをしてくださった(株)グランドレベルの大西正紀さんは、「ひとりひとりの“小さなやりたい”が最強」「それがまちの骨格をつくる」とおっしゃっていたが、『こみすて』には実際、地域の人の“小さなやりたい”があふれ、子どもたちが『こみすて子どもスタッフ』を買って出るなど思いもよらない風景が生まれ、全国から注目を集めた。
- ・「どんな小さな行動でも、すべての動きは自分のやりたいことにつながっている」「学校と社会、大人と子ども、学ぶと働くの壁を取っ払ったら、もっと日本は面白くなる」「(子どもたちが)自分の親の人脈に縛られず、中学生までにいろんな大人に会うことができる」と、生駒市の教育改革担当にプロ人材採用された尾崎えり子さんは言っている。二小に通う子どもたちにとって、親や先生だけではない、周りの大人が“小さなやりたい”を湧き起こしそれを生き生きと実現していく姿は何よりも、先に挙げた【幸せな教育】となるのではないかな。
- ・大人も子どももワクワクする学校を、皆でワクワクしながら創りたい。その過程を含めてきっと、思いもよらない風景があちこちで生まれ、それが生駒の魅力となって日本中そして世界へ伝わっていくと思う。日本の公教育の当たり前を、二小から・生駒から変えていけるとよい。
- ・万が一、それでもどうしても児童数が増えなかったら、その小ささを活かした学校にするための「小規模実験学校法」(通称「スモールスクール法」)という法律があるらしい。＜「子どもの学習権にもとづいて、従来の学校では行えない多様な教育のニーズに答える教育を提供する」という目的でつくられたもの＞だという。

(以上)

生駒南第二小学校 PTA 学校存続委員会 会則

1、(名称)

本会は、令和 2 年9月26日に発足され、生駒南第二小学校PTA学校存続委員会と称し、生駒南第二小学校PTA内に置く。

2、(目的)

生駒南第二小学校の統廃合問題に反対を示すのではなく、生駒南第二小学校を存続させるために、より良い学校作りを目指すものである。

3、(構成)

この会は、生駒南第二小学校 PTA 会員で構成される委員会である。
よって、以下の PTA のあり方を基本に活動する。

『PTA とは、P=Parents(保護者)、T=Teacher(先生)、A=Association(組織)の略。子どもたちのすこやかな成長のために、親(Parent)と先生(Teacher)だけでなく、家庭、学校、地域社会がお互いに協力し合ってさまざまな活動を行う集まりです。』

4、(委員長)

委員長は、PTA 会長が兼任する。

5、(委員の任期)

委員には、任期の指定は無く、末子が小学校を卒業するまでとする。
ただし、家庭の事情等により、途中退会することを認める。

6、(委員の構成)

委員はボランティアで構成され、ポイント等の付加はしない。

附 則

(施行期日)

- 1 この会則は、令和 2 年9月26日から施行する。

生駒南第二小学校 PTA 会員構成図

(令和2年度改訂版)

